

第52回水晶彫刻新作展

を開催

ACTIVE KUMIAI



山梨県水晶美術彫刻協同組合(河野道一理事長)は、10月19日(金)から28日(日)まで、甲府市「かいてらす1階常設展示場」において、第52回水晶彫刻新作展を開催した。

この新作展は、組合員が製作した甲州水晶貴石細工や貴石類の彫刻品又は装身具類を、県内外の美術愛好家に広く紹介することで、水晶彫刻の加工技術等の進歩向上と後継者育成を図り、水晶彫刻産業の振興を行うことを目的に開催されている。

また、新作展は1部「伝統的工芸品」、2部「装身具類」として出品作品を審査し、優秀作品21点に、関東経済産業局長賞をはじめとする表彰がおこなわれた。展示会は、これら入賞作品に加え、仏像、香炉、茶碗等の置物や、リング、ブローチ等の装身具、約60点が展示され、販売も行われた。

今回の新作展は、ベテランに加え若手の入賞者が多く、また、審査員からも市場性の高さが評価されていた。組合では、山梨の伝統産業である水晶彫刻産業の保存と発展のための技術向上や後継者育成に積極的に努めてきた結果であると評価しており、今後も技術の承継やデザイナーの向上のため、後継者育成に強力に取り組むとしている。

水晶といえば山梨と昔からいわれるように、山梨の水晶彫刻の歴史は古く、約200年前の江戸時代に京都から水晶を磨く方法が伝えられてから、甲州研磨として定着し、江戸時代末期には地場産業の基盤を築いたとされており、以来、技術の改良、進歩の中で、昭和51年には、通商産業大臣(現経済産業大臣)から「甲州水晶貴石細工」として伝統的工芸品にも指定され、現在に至っている。

